



な か さ と

発行：中里中学校区小中一貫教育事務局
(中里中学校内 [TEL:025-763-3128](tel:025-763-3128))

チャレンジⅢ 始動!

中里中学校 校長 村山裕之

中里地区小中一貫教育はモデル地区指定から9年間を経ました。10年目となる今年、これまで取り組んできた成果と課題を踏まえ、新たにチャレンジⅢとして始動します。今年度は、残念ながら貝野小学校が最後の年となってしまいます。永い間、貝野地区の子供たちを育ててきた歴史に思いを馳せながら、田沢小と統合に向かっていきます。そのことを受け、来年度から一小一中となることを視野に入れながら重点を絞った組織・内容へと変革し、スタートしました。

具体的には、学区の児童生徒に9年間をかけて育てなければならない資質、能力を「チーム学力」「チーム活力」「チーム支援」の3つのチームにまとめ、計画を立てました。これまで、6つの班から網羅的に取り組んできましたが、内容や担当の重なり、そして業務への負担であることから、十日町市の共通課題である「学力の向上」「不登校の減少」「特別支援教育の充実」という3本柱に絞りました。さらに、保育園から中学校までに身につけさせたい力を系統立てて育てるため、「中里の子を育てる行動指針」を策定しました。



しかし、この4月から展開する予定だった、あいさつ運動での小学校訪問や生徒の行事ボランティアといった活動は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い行えずにいました。それでも、夏休みには小中教職員合同の研修会を実施し、2学期からは、感染拡大防止を図りながら、田沢小と貝野小合同でのラフティングや小学校の親善陸上大会に向けた中学生による陸上指導に取り組みました。今後も、小一中、小一小的繋がりに向け、特に貝野小学校の児童達がスムーズに田沢小学校に移れるよう、交流活動の充実を図っていきたいと考えています。



そして中学校では、各地域で大切に育てられた小学生を迎え入れる学校として安心かつ魅力的であるため、生徒達自身が中里中を誇りに思うこと、中里地区を愛することが大切だと考えています。現在、青山学院大学の苅宿教授の教育プログラムに基づき、自己理解、他者理解を深めています。今後、この活動で得た体験を小学生や地域の方達、そして大地の芸術祭で観光者に還元したいと考えています。

私たちが目指す子どもの姿は、「中里が好き!みんなが好き!自分が好き!」です。一人一人の自己有用感の高まりこそ、人間関係づくりにも、目的を持った学習態度にも生かされていくと考えています。10年目を迎えた中里中学校区の小中一貫教育が子どもたちの健やかな成長につながり、中里地区がさらに発展していくことができますように、関係各位のご理解とご協力をお願いいたします。



学力向上の取組

★ 対話のある授業づくり

子どもたちが主体的に学習に取り組むために、自分たちで解決したくなるような必要感のある課題設定に心掛けます。そして、子どもたちが課題解決に向けて取り組むなかでお互いに助言し合ったり、話し合いのなかで新しい考えが生まれたりするような授業にしていきます。そのような授業づくりを通して、相手のよさや自分のよさに気づき、自己肯定感や自己有用感を育てていきたいと考えています。

★ 家庭での学習時間のマネジメント

宿題はするけれど、自主学習まではしないという子どもがいるかもしれません。また、ついメディアに触れて時間を過ごしてしまうという子どももいると思います。中里中学校区では、毎年「家庭学習メニュー」を子どもたちに提示し、それを参考にして自主学習が進められるように指導しています。今年度は、学年によってその日の内容、1週間の内容と期間は異なりますが、事前に計画を立てて家庭学習に取り組む力をつけていきたいと考えています。



特別支援教育

★ 小学校・中学校を卒業した子どもたちに思いを寄せて

「子どもたちの将来のために役に立つ支援のあり方とは何か」

小中合同の職員研修として、県立川西高等特別支援学校で進路指導を担当している木嶋智子先生をお招きしました。卒業後、就労を目指す高等部の生徒さんについて学ぶことにより、小学校・中学校での支援のあり方を見直すことができました。義務教育を終わってからの人生は長いので、学校で通じることが社会で通用しないということになれば、子どもたちがつらい思いをされるとご教示いただきました。子どもたちが自分の人生を歩んでいくときに、役に立つ支援や指導のあり方を学ぶ機会になりました。講習のポイントは、「一人でできることを増やす」支援のあり方です。学習や掃除・身支度などを手伝うだけでなく、やり方・道具・学習環境を工夫して、一人でやれることを増やしていくことの大切さを学びました。

睡眠チェック(眼育)

この数年で、子どもたちの睡眠時間は短くなり、就寝時刻は遅くなっている傾向があると感じます。これは子どもだけの問題ではなく、社会全体の傾向なのかも知れません。特に今年は小中学校では長期の休校期間がありました。この期間で生活リズムを崩してしまった子どももいたと思います。こんな時代だからこそ、自分で自分の生活のリズムを整えられる力を付けなければならぬと感じています。

睡眠チェックの期間は2週間ですが、事前と事後の指導も力を入れました。また、保育園・小学校・中学校それぞれの発達段階に合わせた全体指導と一人一人の課題に合わせた個別指導も行いました。

この取組を継続して5年目になりました。徐々に中里地区の子どもたち、保護者の方に定着しています。保育園・小学校・中学校でできることは限られますが、継続して取り組むことが子どもたちの力になると願っています。